希学園　第388回　公開テスト　小6　国語　2024年9月8日実施　【模範解答】　制限時間50分

1

1 a 造語　b 停止　c 進展

2 防御〜性化（完答）

3 A 具体　B 社会　C 境界　D 正当

4 危機〜行動（完答）

5 「言〜行為」（完答）

6 （記述題）

7 I ド〜路（完答）　II 苦〜と（完答）

8 （記述題）

9 a ネガティブ　b コントロール（完答）

10 イ

2

1 a 専用　b 資格　c 激務（「劇務」も可）

2 A ウ　B ア　C ユ

3 う〜ズ（完答）

4 （記述題）

5 ア・エ（順不同・完答）

6 イ

7 エ

8 ⑤ 尊重　⑥ 敬意（完答）

9 エ

10 亀田の

1

6 なぜ叱られているのかを冷静に理解し、今後のために自ら行動を省みる

（同意可）

2

8 「叱る」行為が過信される理由と長年の謎が解けた瞬間。

（同意可）

4 満智花がなにを思って自分の両親と長い時間を一緒に過ごすのかはわからないが、いい歳でそれにしっとしていると思われたくない。

（同意可）

［配点］

1	1	1	各2点×13＝26点
	2	2	
その他	1	6	各6点×3＝18点
	8		
	2	4	各4点×14＝56点

希学園 第388回 公開テスト 小6 国語 2024年9月8日実施 【解説】

1 [1]

1 a「造語」は、必要に応じて新たに作られた言葉。b「停止」は字形のバランスに気をつけて書きたい。cの「展」については不要な画を付け足したりすることのないようにしてほしい。

2 冒頭で「叱ることの効果について疑問をもち始めて」たことが述べられており、――線①の箇所はその詳細を説明しているところの一部である。「疑問をもち始め」、それを解消するために考えるのだから、問いかけに近い提題表現だと見なして答えを探すイメージで読み進めるとよい。すると、「叱られた子どもは、なぜ同じことを繰り返すのか。その答えは」から始まる段落に出会うので、そこからを重点的に読み進め、◎の文も参考にして答えを探していこう。

3 A「具体的には」とすれば、直前の「多くの答え」が「どういう状態になるのかについて、多くの示唆」と言い直されていることに合う。B「物理的に走って逃げるわけではありません」というところから、結局いずれ会ってしまう、すなわち集団から完全に孤立できないということから「社会化」とする。C「境界線」は、間にあって区別する線。D「叱りつづけることが問題なのです」とあるので、「叱りつづけることを正当化」できない、と考える。

4 直後に続く部分から◎の文に合わせてとればよい。

5 ――線③の一文を読むと、探したいのは「強い言葉や態度で叱責する」の反対を表したものであることがわかる。さらに言えば、その続きまで読み進めれば、「ネガティブ感情による反応を利用する」ともあるので、ネガティブ感情を引き起こさない場合を探すともいえる。それらをふまえて、――線③の直前からとればよいだろう。

6 後続文に「そのため、子どもたちはまた同じことを繰り返します」とあるので、この空所には「学んでいない」というような内容が入ることがわかる。指定語句を参考にすれば、「なぜ」の使い途は「なぜ叱られたのか」であろうし、「今後」の使い途は「今後の行動」のようなものになるだろう。

7 「依存」のメカニズムについての話題が始まったところから――線⑤の箇所までを整理する。その際、それが依存の身近さの説明になっているはずである。Ⅰは空所を含む文の形から探しやすいであろうが、Ⅱについては「依存の身近さ」＝依存の起こりやすさという話題を明確に意識していないと探しにくい。

8 直前が一行空いていることも理解の助けになるだろうが、この指示語は後続部分をさすものである。読者の興味を引くためのものなので、通読時からこの設問に相当する内容は考えておきたい。「それは、……ときでした。」という文なので、何の「とき（瞬間）」なのかと考えるとよい。

9 処罰欲求→叱る（――線⑦）→安堵・充足感という流れの中で「叱る」に相当する部分である。したがって、叱るという行為の本質を述べていた箇所からぬき出せる。

10 傍線部中のひとことひとことと選択肢の文言を対応させる。

1 [2]

1 a「専用」の「専」は点が要らない。b「資格」については同音異義語にも注意して書く。c「激務」は、文字通り非常に忙しい仕事のこと。

2 A「フィクション」は、想像で作られたもののこと。B「アプリ」は「アプリケーション」の略で、プログラムの一種。意味を説明するのは難しいかもしれないが、身近な外来語なので使えるようにはなっておけるとよい。Cは「ユートピア」になる。現実には存在しないような理想の場所。

3 直後の会話の中で「いや、ルームシューズ。うさぎちゃんの」と述べられているので、「うさぎちゃんのルームシューズ」とすれば字数ちょうどである。「みっちゃんへのルームシューズ」でも十四字だが、「ピンクのなにか」の説明であること、「への」が説明不足であることから、「うさぎちゃんの」としたい。

4 「ごまかした」とあるので、他人からの見られ方を気にしていることがわかる。後続部分をまとめるだけであるが、ポイントを意識してまとめたい。

5 人物像・性格を表すことばはできるだけたくさん使いこなせるようになっておこう。複数の選択肢があるとすぐに選ばないのは、他人の家にいつもいたりソファーの真ん中に座ったりしている少々ずうずうしいところのある人物であると考えられるので、遠慮がちというよりは優柔不断さや主体性の無さからの行動であろう。

6 後続部分から、自分の職場とも関連するところで働こうとしているのに相談すらしてくれなかった満智花に対する思いがあることがわかる。ただし、直前の会話もふまえ、「でも」が受けている母の発言に対する茉子の心情についても触れておくことが望ましいだろう。

7 「笑った」だけに引きずられずに、「『はん』と顎を上げて」というのがやや馬鹿にしたようなニュアンスを含んでいることをつかみたい。直後で茉子が「なに、はんって」と不満を述べていることからも、否定的なニュアンスの表現であることがわかる。それがわかれば、母の発言からどういう批判をしているかをふまえて選択肢を検討する。

8 いずれも同段落からとれる。「尊重という言葉を出されると」とあるので[⑤]には「尊重」が、[⑥]はそれと並列されているので続きから探す。

9 「眉を八の字にして言い淀み、頭を振り」のいずれも「修一」のことを表現しかねていること、とくにその内容が否定的なニュアンスを帯びているであろうことがわかる。「箸袋を異常に細かく折りはじめた」の「異常に」という表現にあらわれた精神・神経的な負担についても触れられるとよいだろう。イについては、「やさしいところもあるんちゃう？」という言い方や文章後半の電話でのやりとりから考えて、信頼を寄せているとまでは言えないだろう。

10 続きの部分では社長である伸吾が会長の修一から叱責されているであろうことが読み取れる。伸吾の社長としてとった行動・判断を探せばよい。その箇所では茉子も自分で判断するようにけしかけていたので、そのことをさしているのだろうと考えればよい。「いきなり理想郷は無理でも、目の前のことにひとつずつ向き合っていくことは…」という意気込みが「はりきる」にも合致しているだろう。

以上